

令和4年度

羽ノ浦小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら学び・考え、ともに高め合える授業の実践
- ねばり強く学習に取り組む態度の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 福本 淳子	委員 校長:多喜川広伸 教頭:上原小代子 教頭:田村卓也
	教務:宮原麻夕子 特支主任:佐野恭子 1年主任:梶尾茂美
	2年主任:羽里理絵 3年主任:鈴木真砂子 研修・4年主任:古川智子
	5年主任:森下久美 6年主任:福本淳子

校長

多喜川広伸

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に前向きに取り組む児童が多く、基本的な学習内容は定着している児童が多い。 ●活用や説明する問題は苦手な児童がいる。また、学力の二極化が進んでいる。	・学習の構えができ、ともに学び合いながら該当学年の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	・学年ごとに漢字テストを実施し、漢字の定着を図る。 ・算数補充プリントを活用する。必要に応じて前学年の学習内容の補充を行う。 ・「羽小っ子の学習ルール」を各教室に掲示し、学習規範の徹底を図る。	取組み継続	・低学年は概ね定着しているが、学年が上がるにつれて難しい。 ・確認プリントやタブレットを使って復習ができた。個に応じた学習を進めることができたが習熟には個人差がある。 ・継続して取り組んではいるが、徹底はできていない。	・学年の状況に応じて、有効的な学習指導の進め方を統一するなど、体制を整える。 ・タブレットを効率的に活用する。 ・学力向上確認プリントを活用する。 ・学習ルールを定期的に確認する機会をとる。
○創作活動などに継続的に取り組んできたため、豊かな表現力を身に付けた児童が育っている。 ●自分の考えや意見を進んで表現する児童は限られている。また、語彙が少なく、分かったことや自分の考えを書き表すことが苦手な児童が多い。	・語彙力・読解力を高め、自分の思いや考えを進んで表現し合うことができる。 ・調べ学習や話し合い活動においてタブレットを用い、考えを深めたり、友達の考えを理解したりできる。	・ホワイトボードや付箋・タブレットなどの活用、話し合い形態の工夫や手引き書の作成などで言語活動の充実を図る。 ・授業や集会活動などで、自分の思いや考えを発表したり書いたりする機会を多く作る。 ・読書の時間を定期的に設け、読書活動を推進する。	取組み継続	・感染症のため話し合い活動ができなかったが、タブレットを用いることで画面上で考えの交流を図ることができた。 ・自分の思いや考えを表現する活動を学習の中に位置付け、自分の言葉で表現しようとする児童が増えてきた。 ・読書に励む子もいたが、個人差がある。	・言語活動を充実させるために、タブレットの活用について探りたい。 ・意味調べや読書で語彙を増やすと共に、書く活動に振り返りの時間を設定することで誤字脱字のない文章を書こうとする姿勢を育てる。 ・読書活動の推進は、全校で読書タイムを設けたり、さらなる働きかけの工夫をしたりする必要がある。
○落ち着いて学習に取り組む、与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見付けたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服しようとしたりする児童が少ない。	・見通しをもって、ねばり強く課題や家庭学習に取り組む、高め合うことができる。	・「家庭学習ガイドブック」の周知・活用、「家庭学習チャレンジシート」により、自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度を育成する。 ・「羽小授業モデル」に沿った授業を展開し、児童が本時や次時の課題を明確にもてるようにする。	取組み継続	・「家庭学習チャレンジシート」は保護者を児童の家庭学習や生活に関心をもってもらうきっかけとなった。 ・めあてや見通しをもたせて授業を展開することができたが、振り返りの時間がとれないこともあった。	・主体的に学習に取り組ませるため、課題・内容を工夫する。今後も家庭と連携して進めていきたい。 ・タブレット持ち帰りによる学習と授業との組み合わせを計画的に行う。 ・学習ルールを定期的に確認する機会をとる。

令和4年度 学力向上ロードマップ



